

リンドバークたちの飛行

石原葉＋ゲッコーパレード

作：ベルトルト・ブレヒト

訳：岩淵達治

会場：東北芸術工科大学

公演日：2018年9月21、22、23、24日

17:00~18:00

はじめに

「山形らしさ」とは何でしょう。美味しい食べ物、四方を囲む山々、出羽三山信仰・・・人それぞれ思い描く山形像は違うと思います。本公演が行われる東北芸術工科大学では、「山のような100ものがたり」と題して、様々な作家の作品や博物資料を通して多角的な「山形」を映し出しています。

とはいえ、普段山形で生活していて、常に「山形らしさ」を実感しているかというところではありません。アトリエで制作し、次のプロジェクトの打ち合わせをし、スーパーで買い物をして、夜景を見ながら帰路につく。私にとって山形は、ものを作る場所であり、日常を過ごす場所です。そういう一人一人の当たり前の生活が積み重なって、目の前の山形の街が作られているのではないのでしょうか。

さて、本公演が行われる芸術実習棟は、芸工大の教員・学生・卒業生による作品が展示され、普段は学生たちのアトリエとして使用されています。彼らはなぜ表現をし、発表しようとするのでしょうか。誰かに頼まれた訳でもなく、必ずしも名声も賞賛も与えられるとは限らない。表現は、誰かに見られることを意図した瞬間から、ただの自己満足であってはならなくて、何かを伝えたいという意志が彼らを表現へと突き動かします。

表現をすること、生活を営むこと。誰かに頼まれたわけでもなく、何かに突き動かされるように、誰かに働きかけること。それは、大西洋横断を初めて果たしたリンドバークの姿に重なるところがあるのかもしれない。

大西洋横断を果たしたチャールズ・リンドバーク。彼の挑戦はすでに過去のものですが、今もなお、どこかで「リンドバークたち」の飛行は続いています。

本公演企画・コンセプト担当：石原葉

— これから聞いていただくのは、最初の大洋横断飛行の報告。
— 一九二七年 五月、ひとりの青年がそれに成功した —



14 スコットランドの岸近くで、
ついに漁師がリンドパークを見つける

15 パリ近郊ル・ブルジュ飛行場では
一九二七年五月二十一日の深夜、
大群衆がアメリカの飛行士たちを待っている

16 飛行士チャールズ・リンドパークの
パリ近郊ル・ブルジュ飛行場への到着

17 まだ到達しえぬものについての報告

13 リンドパークとエンジンの対話

市松 演出家・パフォーマー (舞台芸術)
1988年生。「舞台芸術の学校」にてコンテンポラリーダンス、ヴォイスなどの
身体表現を学んだ後、2016年「砂と水玉」を立ち上げる。ダンス、演劇といっ
たジャンルの境界を越えて作品の発表を行なっている。

9 海水

8 イデオロギー

柴田彩芳 現代美術家 (美術)
1990年生。栃木県出身。現代美術家。京都造形芸術大学大学院、
油画専攻卒業。絵画における人の視覚の可能性をテーマに、
フィールドワークを通して絵画やインスタレーションを制作し
ている。2014年 TOKYOWONDER SEEDS2014 に入賞。そ
の後東京スパイラルギャラリー、京都では The
TerminalKyoto で展示。現在は奈良のアトリエにて制作。

4 ニューヨークが航行中の船舶に発信

5 飛行士たちはほとんど全航程を霧と戦わねばならなかった

渡辺瑞帆 セノグラファー (建築)
早稲田大学理工 学術院建築学専攻修了、2016年度同大学嘱託
研究員。2016年~フジワラテッペイアーキテクツラボ一級建
築士事務所所属。建築やアート作品の設計等に携わりながら、
舞台空間の設計をしている。2014-15年 賛沢賞、2015-17年
無隣館2期を経て2017年より青年団演出部。

1 すべての人への呼びかけ

2 リンドパークの自己紹介

3 飛行士リンドパークのニューヨーク
からヨーロッパへの飛行開始

10 全飛行中すべてのアメリカの新聞はたえまなく
飛行士の幸運を口にした

11 幸運児の思い

12 フランスの新聞の報道では、飛行士たちは
このようにして、上からは嵐、周囲からは
ナンジェッセーの幽霊に脅かされながら飛行
をつづけた

6 夜には吹雪が襲来
7 眠り

本間志穂 ピアノ演奏・美術作家 (音楽・美術)
1989年生。町田育ち。ピアノ講師の傍ら、表現活動を行う。音楽大学を
卒業後、神保町にある美術学校で現代美術のクラスを受講。現在は音楽会
の企画やインスタレーション制作など分野を限定しない姿勢で取り組ん
でいる。2017年9月ギャルリイグレグハヶ岳にて初の個展「静かな変奏」
を開催。

黒田瑞仁 演出家 (演劇)
1988年生。少年期をオーストラリアで過ごす。大学院で建
築学を修めた後、演劇の世界へ。
2015年のゲッコーパレード旗揚げ。以来、全公演の演出を
担当。上演場所と戯曲の組み合わせにこだわった演出を行
う。埼玉県蕨市の木造家屋、旧加藤家住宅管理人。

古賀彰吾 演出家・パフォーマー (演劇・大道芸)
1986年生。東京都出身。座・高円寺劇場創造アカデミー卒。
同アカデミー修了生にて劇団ドクトベツバズを結成。2015年
より北区文化芸術活動拠点ココキタのレジデンスアーティスト
となる。
また、大道芸人「せせらぎ」として各地でパフォーマンスやワー
クショップを行っている。

石原葉 ペインター (美術) / 企画

1988年生。東北芸術工科大学大学院芸術工学専攻博
士課程2年在籍。
「異なる価値観の人々が共に生きることとはどういうことか」
をテーマに平面作品の制作、トークイベントの開催、演
劇美術などに関わる。本公演では、自身初の演劇公演
の企画、全体イメージ・コンセプトを担う。

YUMIKA MORI ファッションブランド (服飾) / 衣装

2016年~服飾家・森弓夏によるファッションブランド。
物体としての服にとどまらない表現や、物語を感じさせる
ディテールが特徴。思わず服について話したくなるような、
着る人/見る人の感情に働きかける衣服の提案。最近では
オザケンに夢中。
Twitter @Beniko_S Instagram@beniko_s
https://ymori.official.ec/

高木 祐香 ヴァイオリニスト (音楽) / 演奏

1990年生。奈良県出身。3歳よりヴァイオリンを始める。
東京都立芸術高等学校、東京藝術大学卒業。現在は、
オーケストラのエキストラ出演、室内楽コンサートを中心と
したクラシックの活動の他、CM音楽や映画・アニメの
OST録音等のスタジオワークも精力的に行っている。

山本瑛子 俳優 (演劇) / 出演

1989年生。大阪府出身。2つの公共劇場の演劇学校
を経て、俳優として活動中。普段は美術館の監視員。
人間への興味が表現の原動力。

崎田ゆかり 俳優 (演劇) / 出演

1988年9月12日生まれ。石川県金沢市出身。同志社
女子大学国際教養学科卒。大学時代は京都で活動。
2015年ゲッコーパレード立ち上げから、場所や空間に目
を向けるようになる。パンと珈琲と絵を描くことが好き。合
気道黒帯まであと一息。

河原舞 俳優 (演劇) / 出演

1988年8月22日生まれ。大阪府吹田市出身。俳優。
京都造形芸術大学舞台芸術学科卒。2016年の戯曲の
樓む家シリーズからゲッコーパレードのメンバーとして本格
的に始動。空間に縛られない芝居を模索している。身長
149cm。

関連企画：トークイベント「私たちは、どこで表現しているのか」

地方の芸術祭と、美術館やギャラリー、劇場との一番の違いはなんだろう。それは作品が単独のものとしてではなく、「ここ」と密接な関係を持つことではないだろうか。

「リンドパークたちの飛行」の公演をするゲッコーパレードの演出家黒田瑞仁氏と、批評家佐々木敦氏をお呼びして、表現者にとっての「場所と時代」を考える。

実施日：2018年9月24日 (月) 時間：13：00-14：30 会場：芸術実習棟3F コレポレーションゾーン 登壇者：佐々木敦 (批評家)、黒田瑞仁 (演出家)、ファシリテーター：石原葉 (本公演企画者)

『リンドバークたちの飛行』について

『リンドバークたちの飛行』は、1927年にアメリカ人青年のチャールズ・リンドバークが世界初で初めて、大西洋の無着陸横断飛行に成功した事実が下敷きになっています。当時は大勢の飛行機乗りが大西洋に挑み、命を落としていました。

1929年、『三文オペラ』などで知られるドイツの劇作家ベルトルト・ブレヒトが、リンドバークの33時間にわたる戦いを戯曲に起こして発表します。戯曲は「ラジオ教育劇」というきわめて特殊な形式で書かれており、これはラジオから流れてくる音声にあわせて、鑑賞者自身がリンドバークの台詞を読み上げることが意図されたものでした。

ゲッコーパレードによる『リンドバークたちの飛行』の上演は山形ビエンナーレで4度目です。初演は2016年12月に、集団の本拠地である旧加藤家住宅で行われた「戯曲の棲む家」第五弾としての発表でした。「戯曲の棲む家」は、「劇場や本棚ではなく、もし一軒家に戯曲が住んでいたらどうなるか」という問いを形にし続けるシリーズです。このときに「俳優と観客が大西洋に見立てた一軒家を移動しながら、リンドバークが飛行中に数々の困難と出会ったように6人の芸術家が演出したシーンを次々に体験する」という上演の形が生まれました。

その後もゲッコーパレード版『リンドバークたちの飛行』は建築史家との共同企画「家を渉る劇」シリーズとして再演を続けています。このシリーズは「文化財として保存された建物を、ただ見学するのではなく体験する」ことを目的としています。これまで東京都の島薗家住宅（2017/10）、神奈川県旧里見弾邸（2018/2）で公演を重ね、2018年10月には早稲田大学演劇博物館での上演が予定されています。

そして今回は、山形ビエンナーレという芸術祭が行われる美術のための場所で、これまでの住居建築で行なってきた上演とはまた違った意味合いの公演です。山々に挑む作家たちの場所を、海を越えようとするリンドバークが通り抜ける姿は、皆さんにどう映るでしょうか。

ゲッコーパレード 黒田瑞仁

ゲッコーパレードとは

2015年に結成された、舞台表現のための集団。上池健太、河原舞、黒田瑞仁、崎田ゆかり、柴田彩芳を中心に活動。名前の由来は「目的ではなく人の集まりこそがパレードのように活動や表現を形成していく」という信条から。ゲッコーはヤモリの英名。本拠地は埼玉県蕨市にある旧加藤家住宅。2016年には同住宅での「戯曲の棲む家」シリーズ5作品、2017年にはバー、リゾートホテル、文化財建築などで各所の特徴を活かした7作品を発表。

